

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		educareつながり		公表日		年 月 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・ベア指導ではあるが、各々集中できるようバーテーション使用。	・ベア療育の際の個別療育の部屋の工夫が必要。 ・今後児童が増えると工夫が必要。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	・法令で必要とされた人員配置数を確保している。 ・マンツーマンでの対応が必要なお子さんがいる際は、足りない場合もある。 ・療育提供、記録の効率化及び急な欠席への対応を考慮するともう1人いると理想	・マンツーマンでの対応が必要な児童が利用している際には、配置が手薄になりがち。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・視覚優位の子どもにも変わりやすいよう写真で提示している。 ・玄関先のみ段差あり、他バリアフリー対応 ・事業所も新しく、閉鎖的な空間がなく開放的である。 ・玄関の段差につき児童が数名居るため声掛けを行っている。	・段差の前に大人が立ち、危険を知らせるための声掛けや大人がそこに立つことで、危険を認識させる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・午前・午後それぞれの療育終了後にオペレーションに沿って、環境衛生の維持を心がけている。 ・子どもが安心、安全に利用できるよう、掃除、安全点検を行っている。	継続して、事業所の環境整備に努める。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・子どもの体調や精神保健上、個別対応することが望ましい場合、相談室を使用し対応する。 ・クールダウンのために個室を使用することがある。	子どもが不穏になった場合で、ベア活動の際には相談室、集団活動の際には個室を活用できるようになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	・PDCAを行う日時を設定し、全職員の参画を促し、共有できるようにしている。 ・定期的な情報共有の場を設け、スタッフ間で統一した支援内容を周知、徹底している。	その日の療育後の振り返りで、子どもの様子を共有し、次回の課題設定を行う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・開所後初の評価。 ・開所して間もないため、今後更なる業務改善に努めていきたい。	・開所後、初の保護者向け評価となり、その結果を真摯に受け止め改善していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・毎朝のミーティングの中で、意見を出し合いオペレーションを確認し、改善に努めている。 ・毎朝のミーティングや定期的なSVで業務改善を図っている。	内部研修や業務の合間で振り返り等を行い、職員の意見を述べる場を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	・心理士、コンサル、自園の保育士から意見をもらえる機会がある。	・開所後1年に満たないため、外部評価は行ってないが、今後検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	・月1回、心理士によるオンライン研修や外部講師による講話の受講などの機会を確保している。 ・内部・外部問わず様々な研修に参加している。 ・スタッフの人数と利用児童数の兼ね合いで機会が少ないことがある。	内部・外研修を行い職員のスキルアップ研修、質の向上を目指した取り組みを実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		・HPへ掲載している。	HPへ掲載している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		・専門の発達検査の結果をもとに個別の児童に沿った内容を作成し、保護者や相談支援へ説明している。 ・アセスメント、モニタリング、必要に応じてサービスの見直しを行っている。	利用開始前のアセスメントや療育での取り組み時に様々なツールを活用しながら、子どもの現状を把握し計画書に反映している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・アセスメントやモニタリングに関わらず、日々の支援に置いて変化が見られた場合には、すぐに情報共有しより良いプログラムになるよう検討している。	継続した取り組みを行っていく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・発達支援システムを使用し、誰でもすぐに共有できる環境を整え、支援計画の確認を行っている。	継続した取り組みを行っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		・随時確認している。 ・様々な様式を活用しながら、多職種が関わり多角的なアプローチを実践している。 ・保護者へ聞き取りし、直接的なアセスメントを実施している。	フォーマル、インフォーマルなアセスメントを継続して取り組み、日々の療育に活かしていく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		・インクルージョンの視点を持ちながら、子どもの支援に必要な5領域の基本支援を計画し、家族や地域と連携を強化しながら、支援の質の向上を高め、持続できるよう設定している。 ・5領域での目標設定を行い、保護者や関わりのある機関と連携を図り、支援内容の設定を行っている。	概ね達成できている。 今後も家族や行政、地域との連携を強化しながら支援していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・専門職の特性を活かし、それぞれの視点から立案し計画している。 ・療育スケジュールを週ごとに作成し、チームで考えている。 ・多職種、連携を図り、様々な角度からアプローチしている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・毎日の療育記録を振り返り、単一化しないよう工夫している。 ・スタッフ同士で、情報を共有し合いながら行っている。 ・担当制にはせず、様々なスタッフが関わることで固定化しないよう視点を替えて対応している。 ・複数のプログラムに区別を、同一プログラムでも児童の特徴に応じて変更を行っている。	療育の振り返りを丁寧に行い、個々の計画書に沿ったプログラムを設定し、遊びをとして社会性を身につけていけるよう支援する。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		・ペア療育、集団療育をプログラムの中に組み込んだ計画の作成を実施している	定期的な見直し、情報共有を行いながら子どもたち自身の達成感、自己肯定感アップのための療育をスモールステップで組み立てていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		・小集団の内容によって、打合せがなされていないことがあるため意識して声掛けし、打合せを毎回行う。 ・子どもの行動の背景に着目した支援プログラムを作成、実施している。 ・日々、情報共有し適切な支援を行えるよう連携している。	マニュアルは整備されているが、新任スタッフに分かり易いよう図解を追加していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		・記録中でも、手短かに話すことがある。余裕がなければもう少し時間を取りその日思い振り返りができればいいと思う。 ・子どもの行動の背景を都度報告・共有している。	概ね達成できている。 今後も継続し、支援スキルの向上を目指す。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・HUG（保護者向け）、療育記録、手立て、言動の背景等を記録に残し、共有、改善している。	連絡帳のやり取りでも写真を添付し視覚的に伝えられるようにしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・未就学児は、成長が著しく、作成時の状況と異なる場合もあるため、必要性を促し適切な見直しを行っている。 ・子どもの成長に応じて、必要な時期にモニタリングを実施している。	概ね達成できている。 今後も必要に応じて適切な見直しを行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		・主に児発管が参画している。	概ね達成できている。会議後情報共有をする時間の確保が難しいため、共有の仕方を見直ししていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		・児童によって、必要がある場合、行政、保健所、児相と連携を図っている。	今後も必要に応じて、関係機関との連携を図っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	・送迎時などお互いの情報を共有できる他、家族などから情報地帯があった際にはすぐに連絡を取り合い、共有している。 ・指導したばかりのため、今はしっかりと情報共有が行われていないがゆくゆく日程を設定し情報共有会を行ってきたい。 ・定期的な会議、送迎時に園との情報共有を行っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	4		・初年度の為、就学時以降の実績はないが今後行っていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	1	・情報共有を行うことはあるが、助言を受ける機会は少ない。	今後、地域資源を活用しながら助言を受ける機会を設けていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	・つながり支援センターの併設により、避難訓練や行事等での交流あり。 ・体制が整ったら、地域交流を図っていきたい。	今後、支援センターのイベントに参加する等検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・送迎時に直接伝える場合やHUGにその日の活動内容、支援方法、課題などを写真とともに記載し、保護者へ共有し、支援に対する理解を得ている。 ・HUGや手紙などで具体的に伝えている。	送り迎えの際に、保護者へ直接療育の様子をフィードバックして。送迎でお会いできない際には、HUGにて報告している。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	・始動したばかりなので、今後検討していけると良い。	今後、検討していく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		・保育所やこども園、幼稚園との併設により情報が複雑になっているため丁寧に対応している。 ・管理者が徹底して細やかな対応をしていく。 ・インテーク時、リーフレットや通所ガイド資料を活用しながら、支援プログラム等の説明を行っている。	インテーク・契約時に限らず、説明を求められた際にはいつでも説明できる状態にしておく。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・管理者が徹底して細やかな対応をしていく。また、親身になって相談を受け、それらは全職員へ共有されている。 ・必要に応じて、個別面談実施。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		・管理者が徹底して細やかな対応をしていく。また、親身になって相談を受け、それらは全職員へ共有されている。	今後も継続して、計画書を示しながら説明を行い同意を得ていく。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・管理者が徹底して細やかな対応をしていく。また、親身になって相談を受け、それらは全職員へ共有されている。	保護者より相談があった際には、適宜面談の場を設け、必要に応じて電話相談等を継続して行っていく。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		・母体法人の保護者会があり、交流の機会など促している。	今後保護者参加型のイベントなど検討していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・相談内容によっては、フローチャートに沿って迅速に対応できるよう確認している。	今後も継続して適宜面談、相談に応じていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	1	・HUGシステムの導入により、保護者は即日子どもの状況を確認できる。 ・体制が整えば行っていきたい。(SNS)	・HP、Instagram等で事業所の活動内容の報告や療育時の様子を配信していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・子どもや外部の人員が立ち入らない場所に錠付の棚を設置し管理している。	・子どもや外部の人員が立ち入らない場所に錠付の棚を設置し管理している。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・目視でわかりやすくしている。 ・視覚的なツールを大いに活用しながらサポートしている。	視覚的なツールを大いに活用しながら配慮していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		・当事業所の療育内容の特性上、以下要を設けるのは難しいが、併設している子育て支援センターとの交流を図ってる。 ・開所して直ぐのためイベントは実施できていない。	・隣接するセンター利用者の方も気軽に事業所見学できるように開放していく。
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		・年2～3回、併設センターとの合同訓練他、随時事業所での訓練を実施。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		・インテーク時やアセスメント、または契約時に再確認を行っている。 ・インテーク時、安全管理シートを記入してもらい既往歴の確認を実施している。	・看護師が常動でないため、受け入れはしていない。
48		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	3	・事業所内での食事提供はしていない。	・事業所内での食事提供はしていない。
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			安全管理に必要な研修や訓練を継続して実施していく。
50		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		・契約時などで周知している。	・契約時などで周知している。
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・所定の様式に沿って、詳しく記載し回覧や報告により防止を心がけている。	原因、対策を練り、再発防止に努めていく。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・研修へ参加し、内部研修時に全職員へ周知徹底している。 ・定期的なアンケート、研修を実施。	定期的なアンケートや研修の継続。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		・当該項目がある場合、マニュアルに沿って検討し十分な説明をした上で、必要に応じて幸地署への記入も視野に入れながら計画書へ記載する。	・当該項目がある場合、マニュアルに沿って検討し十分な説明をした上で、必要に応じて幸地署への記入も視野に入れながら計画書へ記載する。	